

除染後農地の営農では、窒素肥効の持続する 混合堆肥複合肥料の利用が有効である

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

1 部門名

農業環境－農業環境－作物栄養

2 担当者

齋藤隆

3 要旨

避難指示区域では放射性物質に汚染された大部分の農耕地において農地除染(表土剥ぎ、客土)が実施されている。この際、客土の種類によっては地力低下が懸念されている。また、避難指示区域では未だに畜産業が再開されていないことから良質な堆肥が不足している。本課題では、大熊町の除染後農地(表土剥ぎ、客土)において、避難指示区域で流通可能な混合堆肥複合肥料を利活用し、コマツナ栽培における窒素肥効の持続性を評価した。

- (1) 今回用いた混合堆肥複合肥料は天栄村で生産された豚ふん堆肥を利用し、朝日工業(株)が混合堆肥複合肥料(豚ふん堆肥に化成肥料を混合して成分を調整した肥料)として製造した。
- (2) 1作目に混合堆肥複合肥料及び化学肥料を施用し、2作目は無施肥で、1作目の残効によりコマツナを栽培した。
- (3) 混合堆肥複合肥料区は化学肥料区と比べ、2作目のコマツナの葉長が長く、新鮮重、乾物重が高まった(図1)。

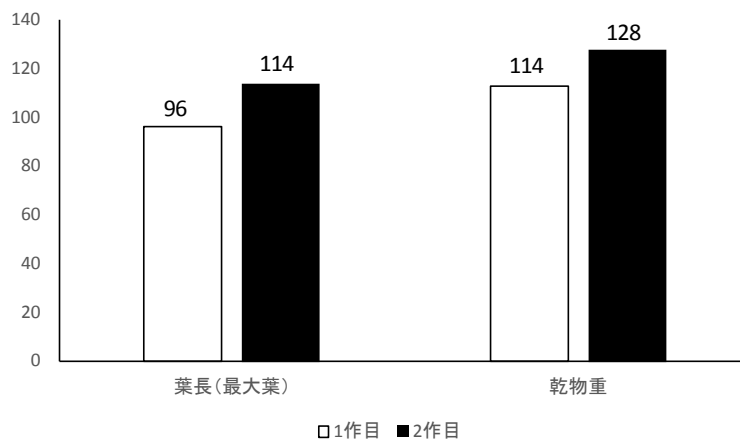


図1 混合堆肥複合肥料を用いたコマツナの葉長、新鮮重及び乾物重の比較
(化学肥料区を100とした場合の相対値)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成29年度～30年度
- (2) 研究課題名 堆肥・回収アンモニアを活用した低コスト高機能肥料の開発
- (3) 参考となる成果の区分 (終了参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 福島県施肥基準(福島県農林水産部 平成18年3月)

(活用した事業名:イノベーション創出強化研究推進事業)